

第4回 市川三郷町 第3次総合計画審議会  
議事要旨

日時：令和6年6月24日（月）午後2時00分～午後3時30分

場所：市川三郷町本庁舎1F 大会議室

出席者：高尾委員、小川委員、加藤委員、渡井会長、小林委員、一瀬委員、笠井委員、塩沢委員、  
村松（昭）委員、市瀬副会長、村松（て）委員、浜野委員、片山委員、依田委員

欠席者：青沼委員、長田委員、渡邊委員

資料：資料1 市川三郷町第3次総合計画策定に向けた検討の流れと課題等の総括

資料2 基本構想案

資料3 基本施策シート案

資料4 意見記入用紙

次第

- 1 はじめのことば
- 2 政策推進課長あいさつ
- 3 議題

(1) 総合計画策定に向けえた検討の流れと課題等の統括について（資料1）

(2) 市川三郷町第3次総合計画基本構想（案）について（資料2）

それぞれについて、事務局から説明。

【質疑】

○資料1の5ページ（6）価値観やライフスタイルの変化への対応の中に「ウェルビーイング」という言葉があるが、一方で別の箇所でも幸福度も出てくる。統一を図ることも重要だと考えるが、カタカナは読みづらいし、意味もわかりづらいと考える。（依田委員）

⇒資料2の17ページに記載があるが、ウェルビーイング＝幸福度となっている。わかりづらいということであれば、注釈を入れて説明書きを追記するなど検討していきたい。

○「ウェルビーイング＝幸福度」の場合、「幸福度のまちづくり」となり、違和感のある文章となるので、もう少し住民にわかりやすい文言を使用していくことが必要と考える。（依田委員）

○今の意見については、個人的には賛成。どうしても町でウェルビーイングなどのカタカナ言葉を使いたいとなれば、それは厭わないが、説明が必要と考える。（会長）

⇒検討する。

○資料2の20ページの町民憲章について、その当時から流れは変わってきているため、町民憲章を見直す必要があるのではないかと見直しするのがこの会議の目的ではないことは理解している。もう一点将来像の込められた想いについては、違和感がある。「つなぐ、つながる」が伝統産業や歴史等に重点が置かれていて、どのようにつながっていくのかをもう少し最後の2、3行でつながりの部分を掘り下げてはどうか。住民が住みたい、住み続けたい、働きたいと考えたときに、このまち独自の地域コミュニティであり、子どもか

ら高齢者が顔を見て、「繋がれる」ことになる考えると考えると少し乖離があると思う。(依田委員)

⇒町民憲章については、この場で判断できないので、総務課とも調整していきたい。来年は合併20周年となるので、タイミング的には良いので検討していきたい。将来像については、事務局の案ではあるので、もう少し掘り下げた文章(地域コミュニティ)にも触れながら、検討していきたい。

○将来像について、1次計画は「やすらぎづくり」、2次計画は「にぎわいづくり」とあったが、今回は新しいイメージが無いように感じる。想いからは意図は読み取れるとは考えているが、官民協働や広域でのつながりも感じ取れるような文章をご検討いただきたい。(会長)

○将来像と言葉の横文字について、ウェルビーイングだけでなく、横文字を見直していただきたい。将来像はイメージがわからない町民憲章と近い感じの抽象的なものになっているのではないかと。「像」として、もう少しイメージが湧きやすいものになればよいと思う。(塩沢委員)

○キャッチフレーズとしては、少しわかりづらい部分はあると思う。委員の皆様からこの言葉を使った方がよいなどのご意見があれば、この場でいただきたい。これまでの「〇〇づくり」といった将来像の作り方とは違うので、工夫が必要かと思う。(会長)

⇒ここで代替案は申し上げられないので、ご意見踏まえて、検討していきたい。

○表記の問題は、和暦(西暦)としてはどうか。横文字は日本語(横文字)、もしくは注釈を入れていってはどうか。内容としてももっと具体的に、農業については「かんかん娘等」などの「等」を入れていくのが良い。歴史も少しお祭り等のイベント(花火など)を記載いただければと思う。花火の日を年2回としても良いかもしれない。もう少しまちの強みを押しつけていけるような計画となるのが良いと思う。(片山委員)

⇒他の計画と整合を図るうえで、西暦(和暦)で統一したい。中身としては少し課題に注目されるようなものになっているので、町の強みをもう少し加えて、PR等につなげていけるように考えていく。

○第2次を検証したときに、「にぎわい」だけが未達成だった。なぜそれが未達成だったのかの理由、それを踏まえて第3次でどのように活かしていけるのかが示されていないと思う。「にぎわい」は、都市マスでもテーマの1つとなっている。どういうまちづくりが望ましいのかが示される。今回の案は「にぎわい」の言葉を使うことをもう少し検討してはどうか。(会長)

○評価の文章が、「ですます調」、「である調」が入り混じっている。(片山委員)

○資料25ページの(2)まなびと共生「国際感覚を磨きながら」のイメージがわからない。  
(3)「健康に思いやり」は文章的におかしい。昨今健康の価値観には多様なとらえ方(病気があっても生き生き暮らすなど)があるので、もう少し文章に肉付けが必要かと思う。  
(6)協働と行政運営で、住民のまちづくりの協働・参画の具体的なところが見えてこない。既存の組とか地区の活動を活性化させるなど、代表者が行政の双方で具体的に語り合う場を作るなど、意見を述べる場を作ればと思うので、26ページの施策体系に具体案

を示していただきたい。最後に施策体系の「ワークインライフ」がわかりづらい。(依田委員)

⇒総合計画は抽象的な計画ということになってしまう部分もある関係で内容について深堀りできていない。(2)のまなびと共生について、国際感覚の部分は第2次総合計画の中でも、学びや教育の部分で国際交流については触れている。今回の計画の方にも記載した形でこういう表記になっている。わかりづらいというご意見があったので、検討をさせていただいて、分かりやすくお示しできるように改善を図っていく。続いて、(3)福祉と健康について、意見をお伺いして、確かに納得する部分が非常に多いので、表記については、事務局で検討させていただいて、分かりやすいような表記に変えさせていただきたい。(6)協働と行政運営でご指摘あった住民の町づくりへの協働参画ってというのがわかりづらいということについては、例えば、今、町で実施している企業間の交流など、住民同士や企業同士の交流について実施しているので、少し肉付けできればと考えている。ワークインライフについては、ワークライフバランスは聞きなれた言葉だと思うが、これは仕事と私生活のバランスを保っていきましょうということですが、ワークインライフは、人生の中に仕事があるという考えで、仕事も含めて人生を考えていきましょうという新しい言葉となっている。

○住民と役場のつながりが薄れていると感じる。町長との接点があれば、設けていただければと思う。(副会長)

⇒10ページに住民参画の状況について、アンケートから結果が出ていますので、協働参画については、町の職員だけでなく地域と協力し合いながら、推進していくことを基本計画に中身を入れて10年後のまちづくりを進めていきたい。

○委員からのご質問があった内容については、基本構想、基本計画いずれについても担当課と共有し計画づくりを進めていただきたい。(会長)

⇒計画づくり、特に基本計画については、ご意見を担当課と共有して住民の意見として踏まえていきたい。

○甲府駅は直線では10数キロなので表現を検討していただきたい。また長野県は観光面から松本市も入れてはどうか。(片山委員)

⇒検討させていただく。

○病院や買い物が困っている地域で不便を感じている方のサポートしている。総合計画ではきれいな言葉で整理整頓されているが、日々困りごとはたくさんある。元気に暮らしていくためには、つながりをもっていつまでも暮らしていければよいと考えている。そういった部分を施策に入れていける部分があればよい。また計画ができれば各家庭に配っていただければ、認知度も上がると思う。(村松(て)委員)

⇒総計の認知度は課題となっているので、住民含め広域的に知っていただけるような打ち出し片を検討していきたい。福祉の充実については、関係課とすり合わせていきたい。

○資料2の課題と体系について、番号はついていないが、優先順位はないとご説明があった。見え方としてはどうしても優先順位となるので、6本の柱を丸く円で配置するなどとして

はいかがか。(塩沢委員)

○業務管理としては、番号づけは必要かと思うが、町民向けとしては検討していただければと思う。(会長)

⇒検討する。

○趣旨で、デジ田はどういったものかについて、デジ田についての注釈があっても良いと思う。(会長)

⇒検討する。

### (3) 基本施策シートの作成について(資料3)

資料3について事務局から説明。

【質疑】

意見なし

### (4) その他

○会議の予定をもう少し早い目にお知らせいただきたい。せめて3週間前などがあるありがたい。(依田委員)

○月曜日の会議は個人的に避けていただきたい。(副会長)

○半月以上前にはお知らせいただきたい。また次回の前に今後の流れについて、お知らせいただきたい。(会長)

⇒会議開催日については可能な限り早くお知らせできるようにしたい。またお示しする資料についても検討していきたい。

○審議会は様々な立場のご意見をうかがえる場なので、皆様に発言いただきたいと考えている。学生の方に意見も聞きたい。(塩沢委員)

○個人的に町の六郷地区でプロジェクトさせていただいた関係で、町とつながりがある。総合計画なので、抽象的にならざるを得ないと思うが、具体的なものがしめされないとなかなか実感がわからないのも理解できる。今後示される計画の中で指標等が示されると思うので、その段階の議論についても注目していきたい。(学生)

○町の構成単位は町民一人ひとりだと思う。それぞれの立場の方が意見を言い合える場があることも初めて知った。今後の未来を見据えつつ計画書の形となることを楽しみしていきたい。(学生)

○前回までの流れがわからないままに来ていたので、次回以降ご意見していきたい。(一瀬委員)

○構想を含めて計画は抽象的にならざるを得ないが、それぞれの立場でのご意見があるのは当然だと思う。委員のご意見はごもっともだと思う。青州学、みさと学があるので、ふるさと愛をもっていただいて、この学校を卒業してよかった、このまちで学べてよかったと思って、この町を出たあと、またここに帰ってまちを活性化してもらいたいと思っている。国際感覚については、国際交流で磨いていくのではなく、どのような視点をもって磨いていくのが大切だと考えている。来てよし、住んでよし、学んで良しを担っていききたいと思う。そういう町になるように貢献していきたい。(小林委員)

○にぎわいとか、まちづくりの視点では、教育は重要なので、今後ともご協力をお願いしたい。  
(会長)

#### 4 おわりのことば

以上